

■ 中野市における立地適正化計画策定の着眼点及び手法

◀ 立地適正化計画の基本的な考え方 ▶

- ◆ 市の特性に配慮し、中長期的な視点で「ゆるやかな誘導」を図りながら「コンパクト+ネットワーク」の都市づくりを推進する。
- ◆ 立地適正化計画策定により実行可能となる各種支援メニューを活用し、関連業務との連携により市街地の活性化を目指す。

○ 計画策定の着眼点

着眼点1 中野市版コンパクトシティの構築

- 市の基幹的な産業基盤である農地の保全と併せて、白地地域の無秩序な宅地化（スプロール化）の抑制に資する計画づくり

着眼点2 北信の拠点都市としての都市機能集積とネットワーク形成

- 定住自立圏の暮らしを支えるうえで、商業・業務のほか、医療・福祉や教育・文化等の各都市機能の維持や効率的な配置を考慮
- 公共交通網については、信州中野駅は圏域における交通結節点であり、効率的なネットワーク形成や利用の増進等の課題への対応を見据えた計画づくり（地域公共交通計画との連携も視野）

着眼点3 災害リスクを踏まえた安全なまちづくりの推進

- 本市においても令和元年度の台風19号では浸水被害を受けたこともあり、防災対策は全市を挙げて取り組むべき課題。「国土強靱化計画」など、国や県の動向を踏まえた計画づくり（防災指針：令和3年度から策定義務付け）

○ 中野市における計画策定の手法

【ステップ1】誘導施設の設定

- 中心市街地において維持・誘導を図る都市機能施設を選定
- 中心部と郊外部での都市機能分担の明確化

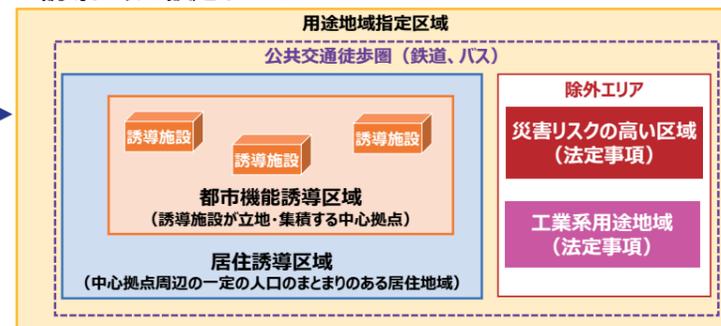
【ステップ2】誘導区域の設定

- 誘導施設の立地状況や、法律上誘導区域が設定できない除外エリアを考慮した上で、具体的な範囲の検討
- 誘導区域外の方向性（都市計画MPへ）

【ステップ3】誘導施策の設定

- 立地適正化計画を策定することにより活用可能となる国の各種支援メニューの導入も視野に入れながら、誘導施策を検討

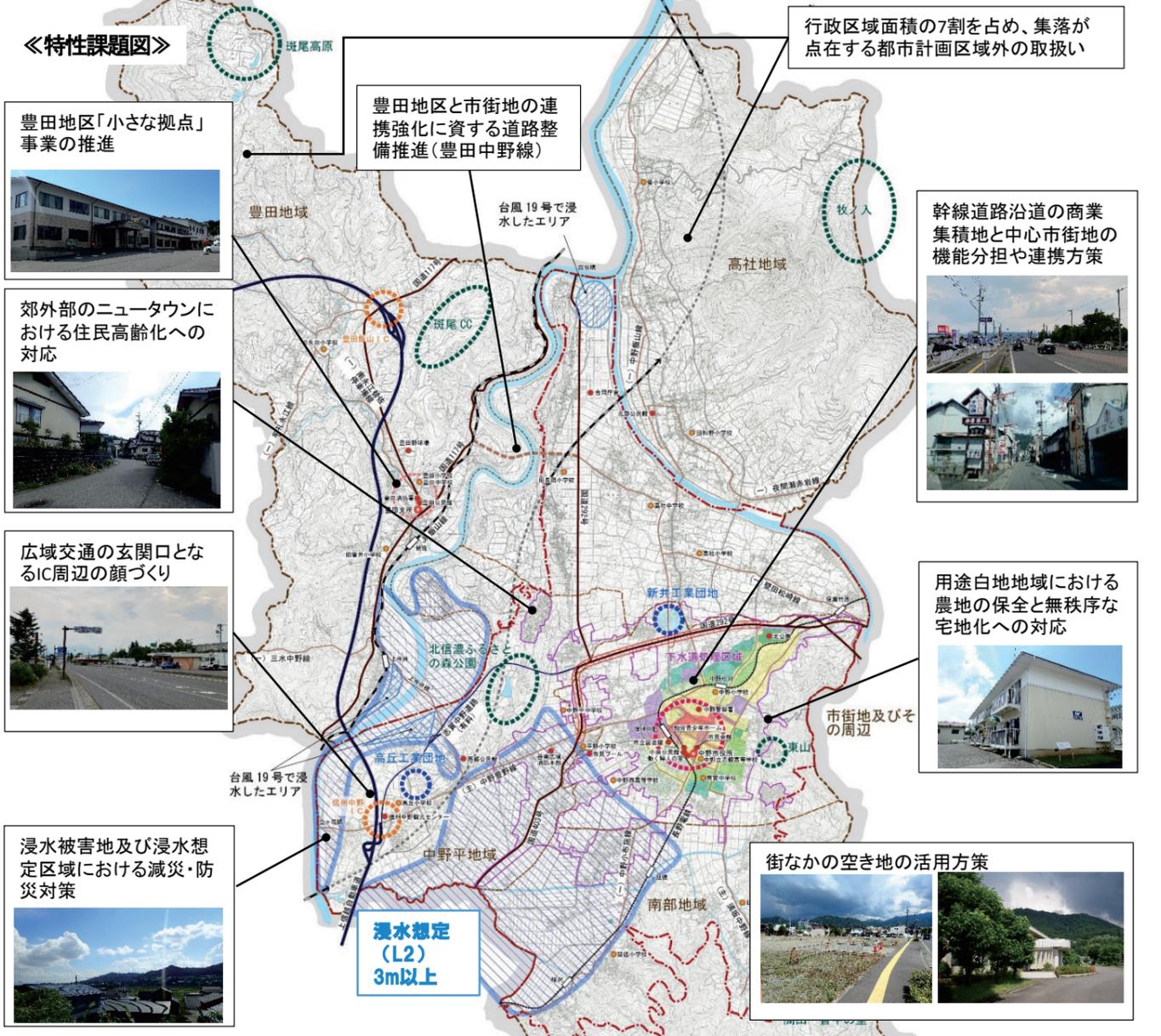
◀ 誘導区域の設定イメージ ▶



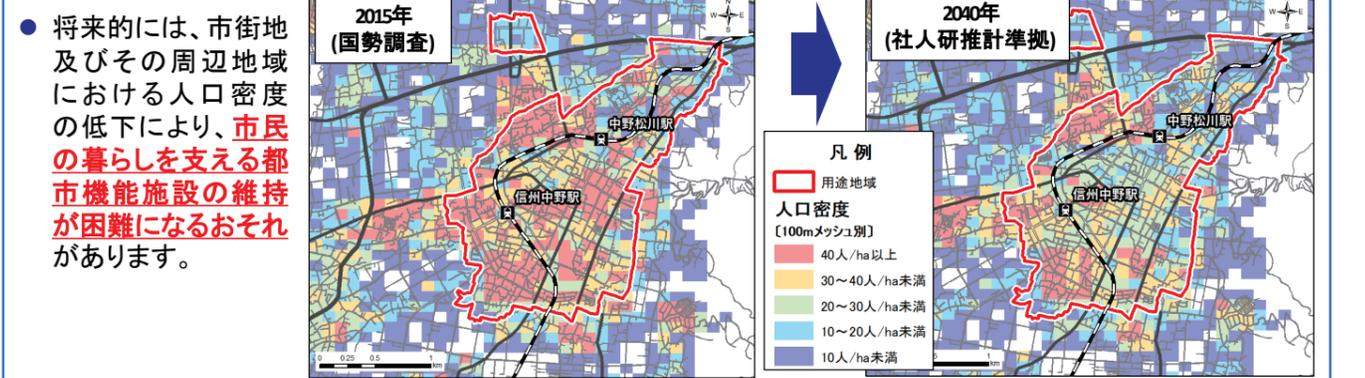
ターゲット	対象エリア	活用可能な国の支援メニュー例
都市機能	都市機能誘導区域	・都市再生整備計画事業（社会資本整備総合交付金）
居住	居住誘導区域	・低未利用土地権利設定等促進計画制度
公共交通	居住誘導区域	・都市構造再編集中事業 ・まちなかウォークアブル推進事業
防災	居住誘導区域	・都市構造再編集中事業 ・都市再生区画整理事業
土地利用	居住誘導区域外	・居住調整地域 ・特定用途制限地域

■ 中野市の現状と課題に対する考え方

- 立地適正化計画及び都市計画マスタープランの作成を通じこれら課題の解決に向けて方策を検討していきます。



◀ 人口分布の将来予測(100mメッシュ別人口の推移) ▶



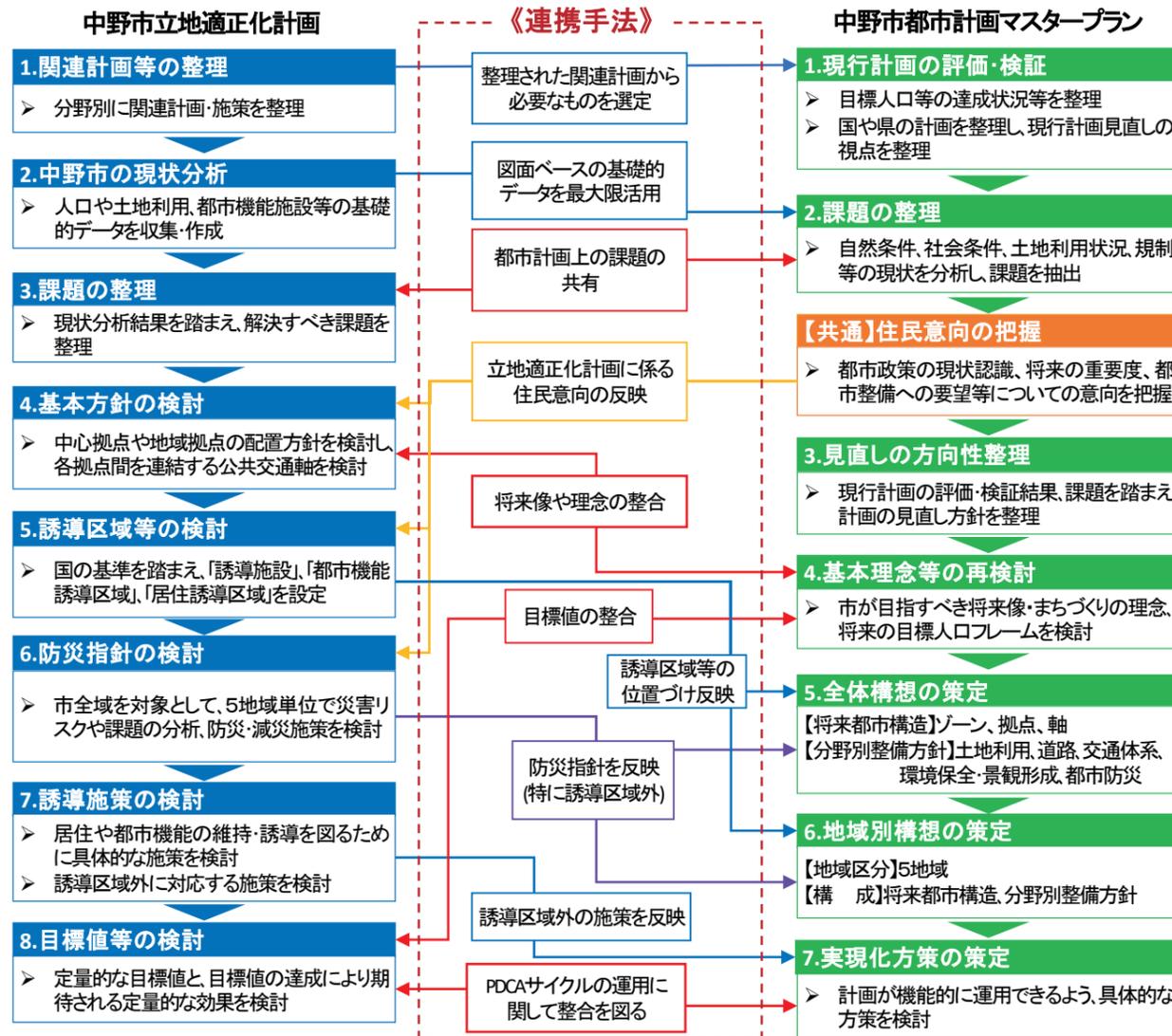
- 将来的には、市街地及びその周辺地域における人口密度の低下により、**市民の暮らしを支える都市機能施設の維持が困難になるおそれがあります。**

■ 都市計画マスタープランと立地適正化計画の連携に関する手法

○連携の基本的な考え方

計画の体系	立地適正化計画は、都市計画MPの高度化版としての位置づけ
検討の手順	基本的には立地適正化計画の検討を先行し、その内容を都市計画MPに反映
計画の対象区域	都市計画MP：中野市全域+5地域単位 立地適正化計画：中野都市計画区域（誘導区域の設定は、用途地域内が対象）

○都市計画MPと立地適正化計画の連携手法

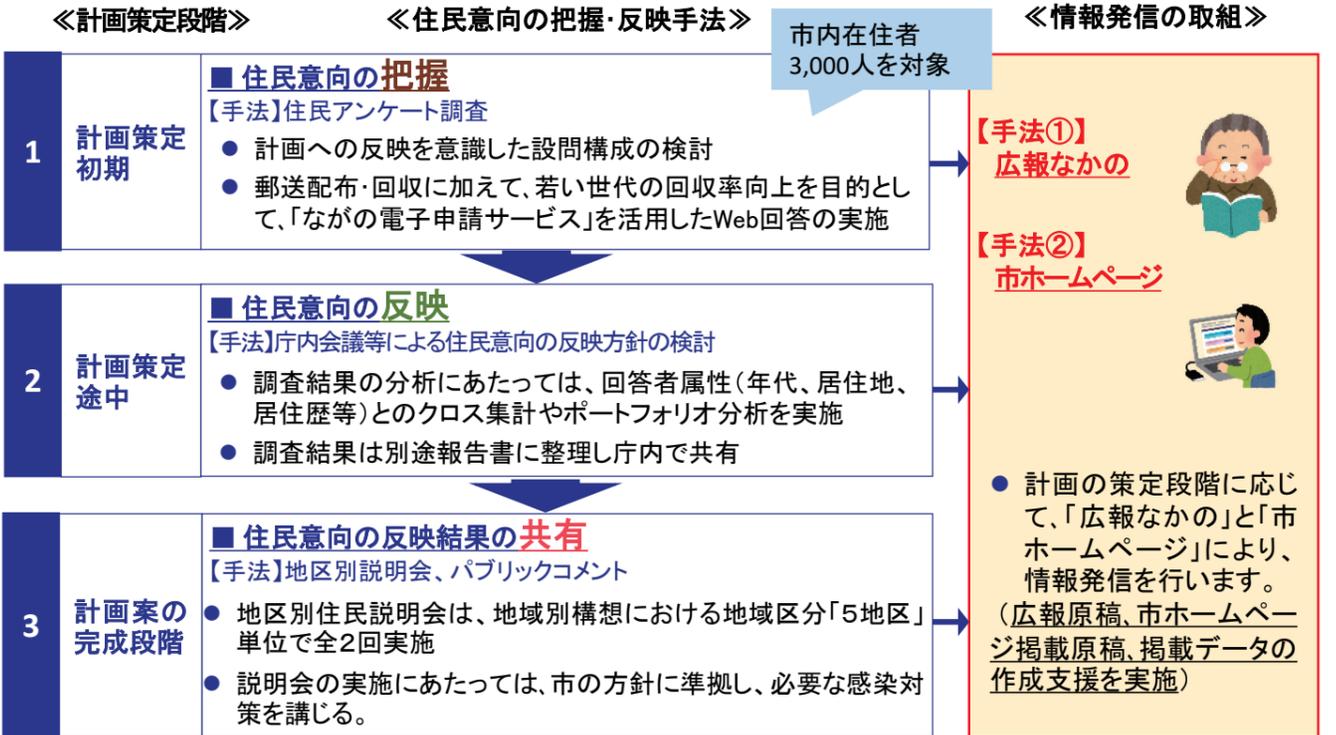


○庁内組織の横断的な連携

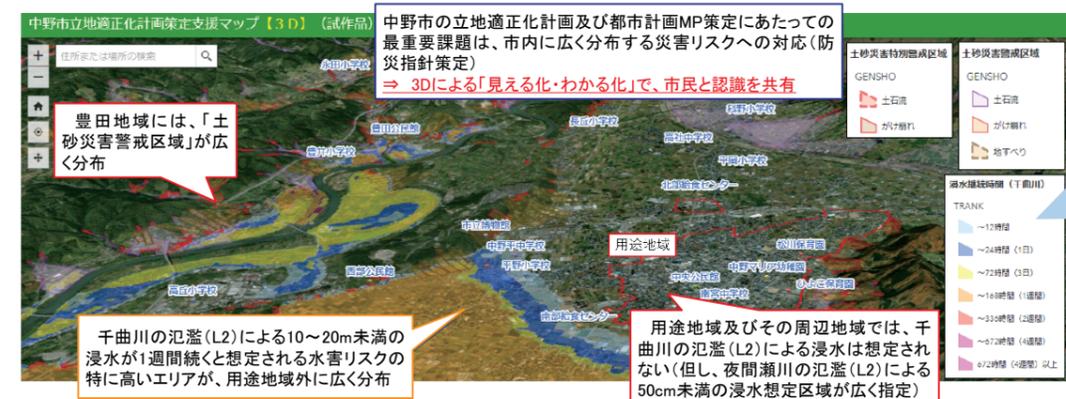
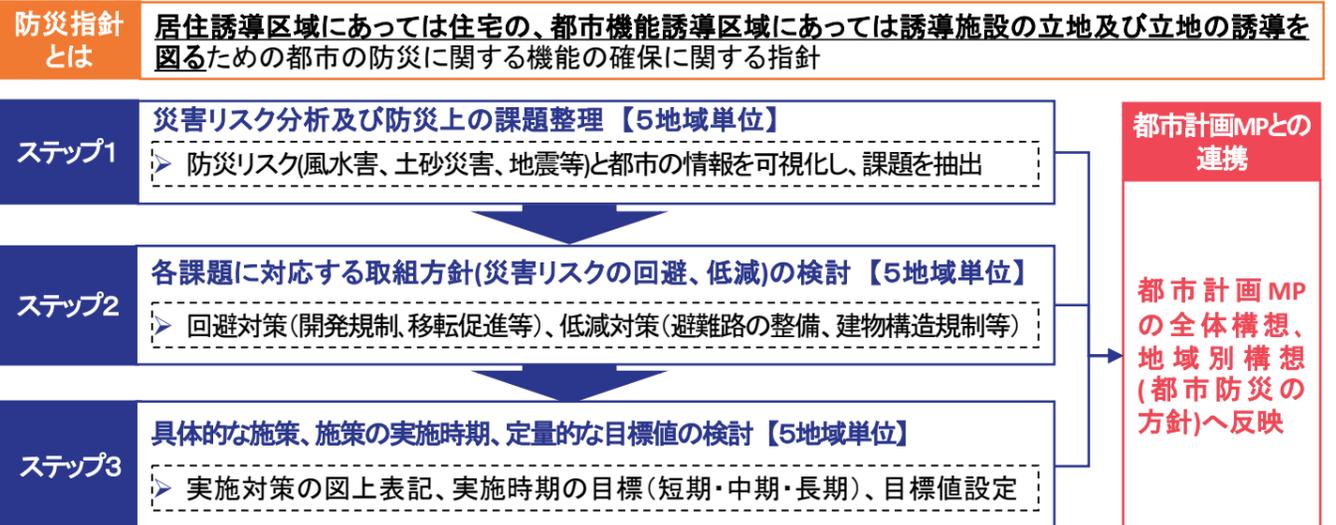
- 本計画は関連分野が多岐にわたることから、行政組織を横断した全庁あげでの計画づくりを実施



■ 市民参画についての提案



■ 防災指針の策定手法(追加技術提案)



インターネットGIS (WebGIS)を活用した現状の見える化を図り、住民説明会等での活用を通じて、地域課題等への理解醸成を図る